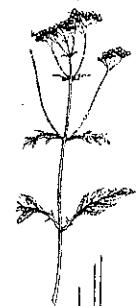


梵天の墓
草花



わしは墓なんか建てまいとおもつとる。建てたところで行くれば困るよ。人様に迷惑かけて無縁墓になるのは目に見えてる。」

と申しますのは、お墓掃除のことです。年に一度のお盆の墓掃除なんです、家を守る者として、そんなこと当たり前ではないかと、われればその通りですが、私の家の墓だけなら、もちろん不平なんか申しはいたしません。しかし最近、わたしたちの村、事情がテントと変わってしまったのです。私がこの村で生まれた頃には80戸近くもあつたそうですが、今では32戸しかございません。

家屋敷を売り払い、ただ祖先のお墓だけを

残して都会へ出て行ったのです。出て行つて、二代は、墓掃除掃つて来たのでしあうが、墓の守りも村にいる縁故の人にお任せして、いまは全くの無縁さん。

わたしの若い時分には、盆正月のご挨拶もいつも四つもあるのです。わたしのうちの場合、そんな預かり墓が三つのようないい時分には、盆正月のご挨拶もありませんが、それも今はまったくございません。村中どこの家も、そんな他人の無縁さん

のようないい墓地をかかえて、実は苦労しているのです。わたしももう80歳を遠くに越してしまいました。それに私のうちの若い者も家から出てしまつて居りません。「わたしが死んだらどうなるのでしょうか?」「イエ、もうおつけ体が動かなくなつたら」と思うと墓掃除の苦心こころはありません本当に憂鬱になってしまいます。

このないだ村の老人会の席でその話しだしました。先輩のおじいちゃんが「そうやない。子や孫や人がお参りに集まつて来て初めて墓やのにな。うちの墓にも「俱会一処」(だれもが出会いえる場所)と掘つてある。阿弥陀經さんにお淨土という処は、先に行つた者も今行く人もまたこれから行く者もだれもが如来様のお膝もとでお出会いできるとある。阿弥陀經さんにお淨土といふ處は、先に行つた者も今行く人もまたこれから行つて来るは本当の墓。だれもお参りもせず人様の荷を厄介になるのは、なんとも惨めな墓やな。

そのお祖父さんはそれから一段と強い声で「墓なんかくても、いつでもどこでも、またたれとでも出会えるナムアミダブツのおいわれを聞かせてもらって、くらしの中に後生の一大事を決定することが、どんだけ安心か」

ご院家さんにようよう問うてこいという事でしたから、墓掃除より先にここに来さしていただきました。

母子ともども お勉強



8月十九日は、恒例の「勝林寺こども研修会」でした。ことはこどもといっしょにおかあさんもお勉強しましようと呼びかけました。少子化時代とあって参考人数は全部で二十七名でしたが、それだけに濃い研修ができたと思います。若いおかあさんにはお数珠

の扱い方、お焼香の仕方など、こどもと同じ初步からまなびました。また本堂内部のお莊嚴を、こどもと共に探検見学できることも今までにはない収穫でした。小谷の宮嶋幸男さまの寄贈なさった親鸞聖人の石像にちなん

で、「親鸞さまってどんなかた」というご法話が聞けましたし、正信偈の唱えかたもご住職から教えていただきました。おもしろいゲ

ームと一緒にしながらのお勉強でしたので、気軽に楽しく学習できたように思います。

午後からの手芸工作の時間は、親子ともども久しぶりに集中できました。

来年からも是非この「母子ともども」という形式を続けてほしいと思いました。五年連続出席のま彰者はつぎの二人でした。

宮嶋 大樹くん(口小谷)
亀井 満理奈さん(川原町)

賄いから全てお世話を下さった仏婦役員の方々に感謝します。



こども研修会
工作に一所懸命

八月八日 全戦没者追悼 千五百蘭盆会法要 表文



超世の攝化 無上大慈の阿弥陀如来

娑婆影現の釈迦善逝

三世十方の仏菩薩

三国法灯伝持伝承の宗師等

帰命頂礼 謹んでこの法要の講式を表白し申

し上げます。
それ惟んみるに
今年こそまさに世紀末の年
はたまた第2次大戦おわりてより五〇有五年
の歳月をけみします。

ここに当たつてつらつら考えますに
この過ぎ越し百年五十年は、物の豊かなるを
求め求めで
奪い合いせめぎ合い、略奪侵略。
結果幾千
万の自他人民の命を奪い合い、平穏としあわ
せを弊履のごとく捨てて顧みなかつたのであ

ります、まさに修羅叫喚の世紀であつたとい
うべきでしょ。

海ゆかば水漬く屍、山ゆかば草蒸す屍、大君の辺にこそ死なめ顧みはせじと軍人戦士を志した帝国軍人は、その榮誉は讃えられはしても、いまとなつてはその第一の犠牲者と云うべきでしょ。

しかし、ここに名もなく榮誉もなく、かの満蒙の荒野に苛酷きわまりない悲劇的状況のなかで、自らの命を濁流のなかに捨てなければならなかつた開拓移民団の人々の天に泣く声は、今も空しく荒野にさまよい続けているのではないでしょか。

つらつら考えてみると、たれもだれもが戦争被害者であり、なおまた同時に戦争加害者でなかつたのでしょ?

このところを、この百年五〇年生きてきた者のみならず、日本人一人一人が、ごまかなく素直正直に顧みることが、それが金戦没者の追悼といえるのではないかだろうか。

その追悼の上に立つて、新たに迎える新世紀に、新たなあゆみをすすめることができます。このではないだろうか。

きょうここに勝林寺門徒こぞつて戦没者追悼五百蘭盆会法要を勤修するにあたり、その意義に思いをいたしつつ、如來大慈悲の声南無阿弥陀仏をとなえつつ、もつて表白とする次第であります。

仏祖、願わくは、愛愍攝取したまわんことを
恵みに思ひをいたしつつ、如來大慈悲の声南無阿弥陀仏をとなえつつ、もつて表白とする次第であります。

二〇〇〇(平成一二)年八月八日
勝林寺住職

敬って申し上げます